

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミⅡ	チーム名	Team AMA☆KARA
タイトル	国民性とその国の経済は関係しているのか		
テーマ群	a) 理論・情報 c) 公共経済		
メンバー	阿曾峻 小川歌萌 清水湧貴 谷口琴美 東城奈実 宮本智広 山下靖公 山本志恩 山本大樹		
研究計画内容	<p>メンバーのひとりに、かつてオーストラリアに滞在した経験から、「オーストラリア人は、おおざっぱな国民性である」と話すものがいた。そしてその「国民性」が大量の消費を促し、経済に影響を与えているのではないかと考えた。確かに一人あたり GDP を見ても、近年のオーストラリアの経済、景気は良い状態が続いているようである。対して私たちの住む日本は、現在も景気や経済がよくない状況が続いているが、仕事や勉学に対するの勤勉な「国民性」や、貯金好きな「国民性」が経済に影響しているのではないかと考えた。では、本当に世界各国の「国民性」はその国の経済に関係しているのだろうか。私たちはこのテーマについて研究を行ってきた。</p> <p>まず、私たちが出会った、国民性と経済の関連をまとめた Luigi Guiso, Paola Sapienza, Luigi Zingales (Journal of Economic Perspectives, Spring 2006, pp.23-48)の論文とその内容を紹介する。この論文では各国の「他人に対してどれほど信頼するか」などといった「国民性」の一種ともいえるものが、その国の経済に関係しているとまとめられている。そしてその論文を踏まえて、私たちは「国民性」を示すものとして今回、「勤勉さ、勤勉性」を計り、それがそれぞれの国の経済、景気に関係しているのかを検証する。</p> <p>この研究を進めていく上でまず「国民性」の数値化は難しいこと、そして「国民性」と経済の関係は、世界の経済学界で今研究がブームであり、また世界中の多くの経済学者が四苦八苦していることがわかった。そのような中で、私たちのような日本の大学生が、どのような手法で、どのような結論を導くことができるのかを期待していただきたい。</p>		